

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	89	スタートアップ・エコシステム構築支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(6)-ア-①			
担当部課名	商工労働部 産業政策課	事業実施 (予定)年度	H26~R13 年度	起業家の育成			
事業内容	スタートアップ・エコシステムの構築に向けて、おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムと連携し、スタートアップの成長支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	127,741		138,005		160,208
		(b) 予算現額	113,975		138,005		160,208
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 13,766	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計 (b+d)	113,975	0	138,005	0	160,208
	B. 執行済額		106,753		136,284		139,392
	うち交付金充当額		85,402		109,027		111,513
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		93.7%		98.8%		87.0%
予算の状況の説明		<p>・令和6年度予算は、スタートアップ・エコシステムの構築支援に係る委託業務、スタートアップの資金調達支援に係る委託業務、グローバルイベントの企画・運営委託業務及びスタートアップの事業検証等に係る補助事業に要する経費を計上したところである。令和5年度に比べ予算額が22,203千円増額となっている理由は、新たにスタートアップの資金調達支援に係る委託業務及びグローバルイベントの企画・運営委託業務を実施したことによるものである。</p> <p>・執行率は87%であり、主に委託料の執行残が発生したことによるものである。</p>					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	ビジネスコンテスト等の開催	目標	—	3回	5回	8回	
		実績	—	16回	14回	6回	
	スタートアップと支援者のマッチング件数	目標	—	—	30件	30件	
		実績	—	—	43件	35件	
	エンジェル投資家等によるメンタリング数	目標	—	—	—	30件	
		実績	—	—	—	82件	
	県外スタートアップイベントへの参加支援	目標	—	—	3社	3社	
		実績	—	—	9社	6社	
	研究開発型スタートアップのプロダクト開発支援	目標	—	—	—	7件	
		実績	—	—	—	7件	
	広報活動(SNS)	目標	—	70回以上	70回以上	70回以上	
		実績	—	185回	354回	514回	
	誘致したエンジェル投資家によるメンタリング数	目標	—	3件	3件	—	
実績		—	97件	109件	—		
研究開発補助件数 (継続・新規の合計)	目標	5件	—	—	—		
	実績	6件	—	—	—		
アントレプレナーシップ醸成とコミュニティ形成を促進するためのイベント実施	目標	1回	—	—	—		
	実績	14回	—	—	—		
ビジネスリアルプログラムの実施	目標	実施	—	—	—		
	実績	実施	—	—	—		
進捗状況説明	<p>・ビジネスコンテスト等の開催は、目標値を下回ったものの、マッチング機会創出の取組として、コーラルピッチや部会でのピッチを実施した。(未達成)。</p> <p>・スタートアップと支援者とのマッチング件数は、支援拠点におけるイベント等においてマッチングを実施し、目標値を上回る活動を実施した(達成)。</p> <p>・エンジェル投資家等によるメンタリング数は、目標値の30件をクリアすることができた。(達成)。</p> <p>・県外スタートアップイベントへの参加支援は、県外イベントへ3回出展し、延べ6社が参加したことから目標値を上回る活動を実施した。(達成)。</p> <p>・研究開発型スタートアップのプロダクト開発支援については、計画通りの支援を実施した(達成)。</p> <p>・広報活動(SNS)は、情報発信体制を強化したことから、目標値を大きく上回る活動を実施した(達成)。</p>						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
	①スタートアップのステージ移行(起業→アーリーステージ)	目標			—	5社	5社
	実績			—	5社	10社	—
②社会実装されたプロダクト数	目標			—	—	5件	—
	実績			—	—	0件	—
エンジェル投資家の招聘人数	目標			3人	3人	—	—
	実績			17人	8人	—	—
スタートアップの創出数:5件	目標			5件	5件	—	—
	実績			4件	7件	—	—
達成状況説明	<p>①ベンチャーキャピタルからの資金調達支援や販路開拓等の支援を実施し、ステージ移行したスタートアップは10社となり、目標を達成した。</p> <p>②研究開発型スタートアップのプロダクト開発支援については、採択したスタートアップに対し有識者によるメンタリングや協業候補先の紹介などを実施し、過年度採択したスタートアップに対しても、フォローアップ支援を行ったが、令和6年度については社会実装されたプロダクトがなく、目標達成には至らなかった。</p>						

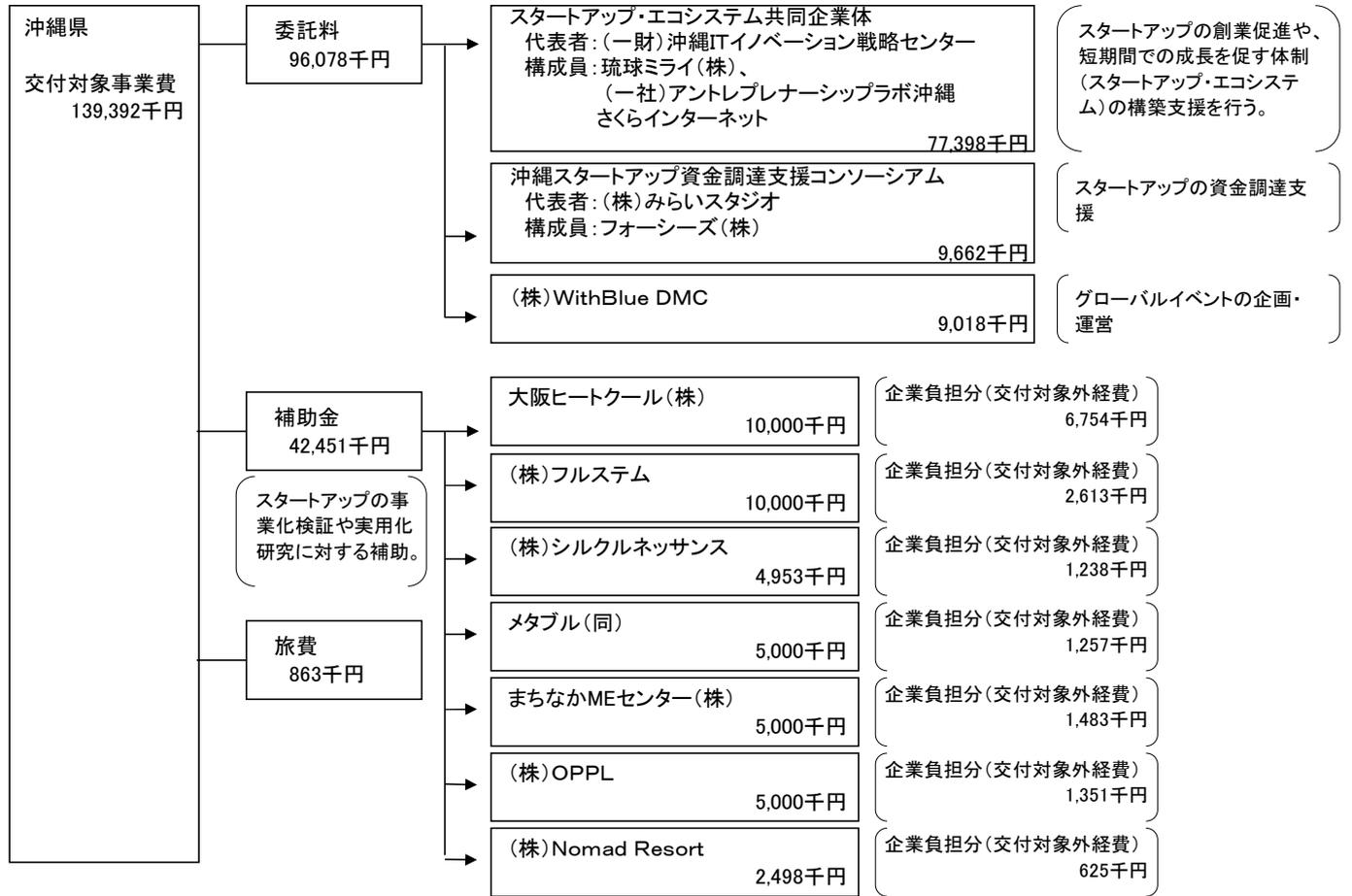
R6-No.89

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<p>①おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムにおいて、起業家人材の育成に向けた起業関心層の掘り起こし、資金調達環境の充実に向け、定期的にベンチャーキャピタルが来沖する仕組みづくり、県内事業会社のオープンイノベーションの機運醸成や行政・支援機関の連携強化など、各部会活動の充実を図った。</p> <p>②支援したスタートアップに対する事後アンケートにより支援ニーズを把握し、必要に応じておきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムの加盟組織が実施する別の支援に繋げていく等の活動を実施した。</p> <p>③、県内スタートアップの県外(海外)展開支援にあたっては、県外(海外)支援機関と、それぞれの地域のスタートアップのビジネスマッチングを継続して実施するとともに、県外(海外)支援機関が実施する展示会などに、継続して出展し、連携の強化を図った。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムの加盟組織が連携してスタートアップ支援を行うことができるよう、スタートアップとのマッチングイベントやスタートアップ支援についてのノウハウや最新事例の共有等、加盟組織のニーズを踏まえた部会活動やイベントの企画・運営等を実施し加盟組織全体の巻き込みを強化する。</p> <p>②これまで培ってきた県外(海外)エコシステムとの連携基盤を活用し、スタートアップの成長と国際展開を促進するための支援体制を更に強化するほか、イベントで生まれたネットワークが一過性のものに終わらないよう、フォローアップやマッチング支援の強化を図る。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
154,713	139,392	111,513	27,879	0	0	15,321



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により公募し、選定委員会で決定しており、選定方法は妥当と考える。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業者は各分野の専門家で構成する審査委員会で、ビジネスモデルの優位性等を審査し選定しており、選定方法は妥当と考える。
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である支援企業は総事業費の20%以上を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当と考える。
	○ 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、完了検査により、適正であることを確認した。

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	125	経済金融活性化促進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)		3-(6)-7-④			
担当部課名	商工労働部	ITイノベーション推進課	事業実施 (予定)年 度	R4~R6	年度	金融関連産業の集積促進		
事業内容	北部圏域の自立的発展に向け、経済金融活性化特別地区制度をインセンティブとした立地を促進するため、特区内企業の人材確保・育成に関する下記の取組を支援することで、ビジネス環境としての魅力向上を図り、更なる特区内への企業集積を促進する。 ①人材確保支援 (1)特区内企業の見学ツアー (2)特区内企業とのマッチングイベントの実施 ②人材育成支援 (1)特区内企業集合型研修の実施							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	11,470		10,926		10,926	
		(b) 予算現額	11,470		10,926		10,926	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計(b+d)	11,470	0	10,926	0	10,926	
	B. 執行済額		10,812		10,727		10,043	
	うち交付金充当額		8,650		8,582		8,034	
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		94.3%		98.2%		91.9%	
予算の状況の説明		主に委託料の執行残が生じたことにより、執行率は91.9%となった。						
活動目標 (指標) 及び進捗状 況	R6活動目標(指標)		進捗状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	①人材確保支援 (1)特区内企業の見学ツアー(3回)	目標	3回	3回	3回	3回		
		実績	3回	4回	3回	3回		
	①人材確保支援 (2)特区内企業とのマッチングイベントの実施(3回)	目標	3回	3回	3回	3回		
		実績	4回	3回	4回	5回		
②人材育成支援 (1)特区内企業集合型研修の実施(初任者5回、中核人材5回)	目標	-	初任者5回、 中核人材5回	初任者5回、 中核人材5回	初任者5回、 中核人材5回			
	実績	-	初任者5回、 中核人材6回	初任者5回、 中核人材5回	初任者5回、 中核人材5回			
進捗状況説明	①(1)見学ツアーは目標3回のところ3回実施し、目標値を達成した。(参加者数 延べ31名) (2)マッチングイベントは目標3回のところ5回実施し、目標を達成した。(参加者数 延べ27名) ②(1)集合型研修は初任者5回、中核人材5回を目標として、実施は初任者5回、中核人材5回と目標を達成した。(参加者数 初任者向け延べ31名 中核人材向け延べ26名)							
成果目標 (指標) 及び達成状 況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)	
	特区内への新規就業者数:15名		目標	-	-	15名	15名	-
			実績	-	-	16名	32名	-
	達成状況説明	人材確保・人材育成の支援として活動目標に掲げた取組を実施し、特区内への新規就業者数については、目標数15名のところ32名と目標値を達成した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・課税の特例を目的として、令和5年度には2件の立地があり、今年度は2件の立地相談があるなど、税制自体には企業誘致のインセンティブがあるものの、進出後の人材確保が課題となっている。 ・近年の就職活動は、インターンシップによる採用が主流となっているが、特区内企業は中小企業、ベンチャー企業を主としており、人手が足りず受入の準備が十分にできていない状況がある。 ・地理的ハンディキャップによりツアーやマッチングイベントへの参加者が集まりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについては、実際に働くことを通して各企業の業務内容について理解を深めることにより、就業希望の促進が可能となることや、採用のミスマッチの抑制にも効果的であることから、特区内企業のインターンシップ等受入を支援する必要がある。 ・より多くの学生・求職者が参加できるよう開催場所や周知の強化を図る必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップによる採用が拡大している状況を踏まえ、北部企業によるインターンシップ受入を支援するため、インターンシップのマッチングイベント等を実施して特区内企業について認知度の向上を図り、学生のインターンシップ参加を促進する。また、学生、企業のインターンシップに関する相談に対応する。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
	総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
	10,043	10,043	8,034	2,009	0	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象事業費 10,043千円] -- 委託料 10,043千円 --> B[経済金融活性化促進事業コンソーシアム 10,043千円] B --- C(代表者: 特定非営利活動法人NDA 構成員: 株式会社イー・ステート・ラボ 株式会社ケイオーパートナーズ) B --- D(経済金融活性化促進事業にかかる委託業務) </pre>							
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目			評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託事業者は、事業内容を考慮し企画提案プロポーザルによって選定したため、妥当であったと考える。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			○費目・用途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。		
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	158	琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(6)-1-①			
担当部課名	文化観光スポーツ部	文化振興課	事業実施（予定）年度	R4～R8 年度			
			沖縄振興基本方針該当箇所	文化芸術に関する産業の創出・振興 Ⅲ-3-(2)			
事業内容	県内の文化芸術団体等が琉球の歴史文化に由来する文化資源をテーマとした新たなコンテンツを制作する取組について支援（補助）を行う。 また、琉球の歴史文化を活用した文化産業に関する講演会、支援事業の報告会など、文化の産業化に向けた取組をPRする講演会等を開催する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（令和6年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	40,000		42,668		37,852
		(b) 予算現額	37,000		42,668		37,852
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,000	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					0
		A. 計 (b+d)	37,000	0	42,668	0	37,852
	B. 執行済額		34,849		39,920		37,190
	うち交付金充当額		27,879		31,936		29,752
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率（%）(B/A)		94.2%		93.6%		98.3%
予算の状況の説明		・県内の文化芸術団体等が琉球の歴史文化に由来する文化資源をテーマとした新たなコンテンツを制作する取組について支援（補助）を行うため、補助事業者公募・広報、申請書作成支援、受付等に要する委託料及び文化団体等への補助金を計上した。 ・執行率は98.3%であり、補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	支援件数		目標	6件	10件	10件	
			実績	6件	10件	8件	
進捗状況説明	琉球の歴史・文化資源をテーマとした新たなコンテンツを制作する取組について、事業実施者への支援（補助）を8件（新規5件、継続3件）実施した。補助金の上限額の交付が必要な比較的大きな規模の事業の採択が多く、予算の範囲内で厳正な審査を行った結果、8件の事業の採択が最も効果的であるという結論となった。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（R4年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R8年度）
	支援した取組の商品化等件数		目標	6件	6件	3件	25件
			実績	6件	6件	5件	
	達成状況説明	琉球の歴史・文化資源をテーマとした新たなコンテンツを制作する取組について、事業実施者への支援（補助）を8件（新規5件、継続3件）実施した。補助金の上限額の交付が必要な比較的大きな規模の事業の採択が多く、予算の範囲内で厳正な審査を行った結果、8件の事業の採択が最も効果的であるという結論となった。 目標値の件数は、R4～R8の新規補助の支援計画件数（累計）を記載。					

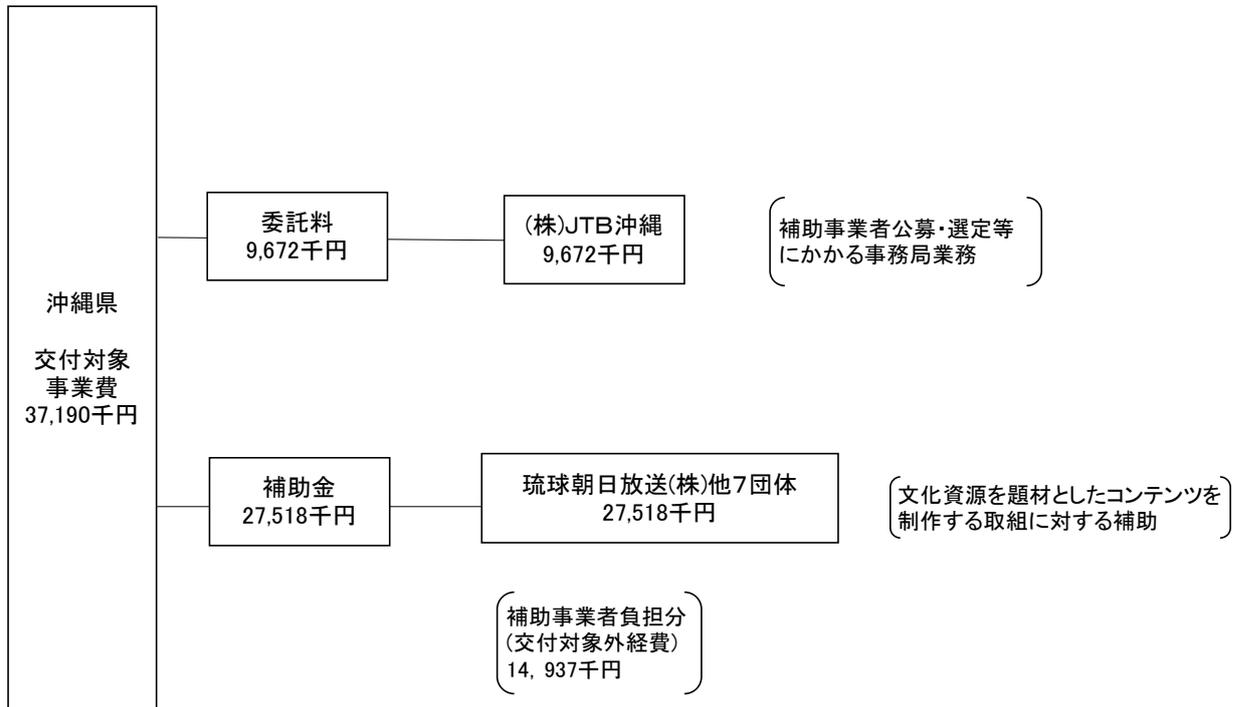
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業者の事業成果(効果)を高めるため、事業期間を十分確保する必要がある。 事業及び新規コンテンツの認知度向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業者の早期事業開始に向けた改善として、補助事業者の公募等を委託する事務局の選定・委託契約を年度当初に締結し、補助金交付決定の時期を早めることにより、補助事業の効果を高める環境づくりを行う。 事業の受託者に周知を依頼するだけでなく、委託者側でも効果的な周知の手段・方法(広報誌の活用、関係団体への送付等)を検討する。

今後の取り組み方針

・補助事業者の公募等を委託する事務局との契約を4月中旬までに締結し、補助事業者の公募を5月中旬頃に行う。
 ・県の広報誌・SNSも活用して事業の更なる周知に務める

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
52,127	37,190	29,752	7,438	0	0	14,937



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業社は、企画提案プロポーザルにより企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業者は、県内外の有識者で構成された有識者委員会の審査により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者は総事業費の一部(新規25%、継続50%)を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合を勘案し妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	